

創傷治療の歴史は身近な医療材料に繋がっている!!

医学部看護学科 成育看護学講座
イシカワ マリコ
石川 眞里子 教授



◇ 創傷ドレッシングの歴史

W. J. ビショップ著 川満 富裕訳
時空出版

私たちが日常的に創傷のケアに使用している医療材料には、創傷を被覆するガーゼやパット類、皮膚保護剤をはじめとして、固定用の包帯・テープ類、消毒液や治療薬、洗浄機器など多くのものがある。それらの創傷ドレッシング材は何気なしに使用しているのだが、本書では戦争による銃創や解放骨折などの治療をしなければ死に至る時代から現代に至るまでの創傷療法の歴史、さらに外科治療の変遷までも見えてくるから面白い。外科医の必死の試行錯誤や試練ともいえる努力から創傷治療やドレッシング材の変遷が遂げられてきたことの理解は、より良い材質の開発やケアのあり方に繋がるものである。

私はストーマケアナース (Entero Stomal Nurse) のトレーニングを1980年代に受けて長年ストーマケアに関与する中で、ストーマ粘膜と皮膚の縫合創に直接当てるストーマ装具の皮膚保護剤といういわゆるドレッシング材の研究が進んだ経緯を目の当たりにしてきた。ストーマ創が感染制御されて縫合創がきれいに修復する原理は、創傷治癒理論を背景として、いかに創傷被覆材が創部の環境を整えるのに有効かという証明にも繋がっている。また、皮膚排泄ケアの観点からは褥瘡ケアはまさしく創傷のステージに応じていかに創傷ドレッシング材の特徴を理解した上で使い分けるかが重要であるが、基本的なスキンケアの原理と相まってケアをしないとその効果も半減してしまうこともある。このように、創傷ケアはスキンケアとも関連しており看護においては日常不可欠な知識となっている。

本書により、歴史的背景を理解しながら創傷管理の理論の変遷をたどってみるのは、目の前に起きている現象を理解する一助となることを確信する。ぜひ手にとっていたきたい。

教育の「これまで」を知り、「これから」を考えるために

大学院総合研究部 教育人間科学域 教育学系
イワナガ マサフミ
岩永 正史 教授



- ◇ 大衆教育社会のゆくえ
- ◇ 自民党と教育政策
- ◇ 日本が「神の国」だった時代
- ◇ 教科書が危ない

学校の先生の仕事はいそがしい。目の前に起こるさまざまな問題につぎつぎに対応していくと、あっという間に一年が終わります。

でも、ちょっと待って。一つ一つの問題を、客観的に見ると、いろんな疑問がわいてくるはず。「学力向上と言うけれど、今のやり方でいい?」、「子どもの学力が二極化している。なぜこうなったんだろう?」、「道徳を教科にするとするけれど、なぜ?それで教育は、よくなるの?」…

こんな疑問は、大切にしたいものです。確かに、「今日、明日の実践」は大切ですが、学校の先生には、「今日、目の前の問題」を形作ってきた教育の「これまで」を知り、「今」を理解し、「これから」を考えることも重要だからです。そんなとき、読みたい四冊です。

『大衆教育社会のゆくえ』刈谷剛彦 中公新書

『自民党と教育政策 ―教育委員任命制から臨教審まで―』山崎政人 岩波新書

学校を取り巻く状況はどう変わってきたか、どう変わるか、教育を動かす背後にある、政治、行政、社会の教育に対する見方を批判的に検討しよう。

『日本が「神の国」だった時代―国民学校の教科書を読む』入江曜子 岩波新書

『教科書が危ない―『心のノート』と公民・歴史』入江曜子 岩波新書

前者は、日本が第二次大戦へと突き進む中どんな教育がされたのか、当時の教科書教材を豊富に示しながら考えます。歴史を知ることが「今」を知ることです。そして、同じ目で見えた筆者が「今、感じる危うさ」を述べたのが後者。「同じ失敗」を繰り返さないために二冊合わせて読んでみよう。

所蔵あり ⇒ 医学分館 2階開架図書 (第三) W0185 / SOU

所蔵あり

中公新書⇒ 本館2F一般書架 372.1
岩波新書⇒ 本館2F文庫新書書架 JIM, NIH, KYO